

事前意見照会における委員意見一覧について

令和 4 年 10 月

政 策 局

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 海原 泰江

議題（１）「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

障がい児・者-誰もがその人らしく暮らせる地域社会の実現を目指して

- グループホームの設置促進を県としては進めています。重度の方の生活を支える仕組みは依然として不十分です。
- 何故ならば、重度の方を受け止める形で国のグループホームの仕組みはできていないし、重度の方の支援を想定しての報酬体系にもなっていません。
- 神奈川県は県立施設のあり方を出来るだけ通過型とし、地域移行を進めるとしていますが、現実には非常に厳しいです。課題のなかにも記載があるように重度の障害者を受け止めるグループホームは遅々として進まない状態だからです。
- 私の法人でも県立施設からの利用者の受け入れを2名行っています。しかし、期限（3年）のある県の移行補助金を用いても、3年後に特別加配をした職員をなくして、支援の継続が出来るかと問われれば、非常に厳しいものがあります。そもそも、施設を長期間利用されていた方は、課題があつて地域での暮らしが難しかった方です。また施設のなかでも地域への以降を念頭にいれ支援をするという考え方がほとんど無い中では、グループホームで引き受けてから様々な支援を実施する状況です。
- そこで、課題となるのはグループホーム内での居宅介護（身体介護）の利用が、市町村によって大きな差があることです。
- 今回の点検報告書のなかでもホームヘルプの利用がコロナの影響で減少されているとの分析がなされています。たしかにコロナの影響でヘルパー派遣が少なくなっていることも一つの要因だと思いますが、私が活動している中核市である横須賀市においては、財政が厳しいこともあり身体介護等の支給決定を渋る傾向にあります。
- 併せて、グループホーム内の居宅介護の利用についても、現在国は経過措置としているために、市町村によってはグループホーム内の居宅介護の利用を渋る傾向にあります。
- しかし、重度の方の支援を、その方のペースで支援を行おうとするとどうし

でも一対一対応にならざるを得ません。

- 重度の方を地域のグループホームで受入る際には、居宅介護もしくは重度訪問介護の活用ができるようにしていかなければ、現在の状況を変えていくことは出来ないと思います。
- 神奈川県は点検報告の中で何故重度の方の地域移行が進まないかの課題を明確に掲げ、その改善に向けての対応を進めていく必要を感じます。
- 神奈川県は現在「当事者目線の障がい福祉推進条例」の策定を2023年5月実施を目指し、県議会の民生常任委員会で審議がされていると思います。唐突に「当事者目線」という言葉を聞いた時に多くの関係者は「共に生きる社会かながわ憲章」があるのに何故、その名称を活かさないのであろうかと思ったと思います。私も一瞬そのように感じました。
- しかし、県立支援施設の検証の中で多くの信じられない虐待事例が出てきた中で、私も含めて、利用者の思いを本当に真摯に傾けてきたであろうかとの思いがありました。歴史的にみても神奈川障害者運動は身体障害者の当事者の方からスタートし、知的障害者の声は当事者ではなく家族の声で進めてきました。今改めて「当事者目線」という言葉をつかうことは、支援者に「利用者の思いを聞き取り支援に生かすことを求められている」と考えます。
- 併せて、「障害者権利条約」を日本が批准した際に、各県に「差別解消法」の条例を作ることが求められてきました。しかし、神奈川県は差別解消法を制定することなく今日まで至っています。その時に差別解消法が何らかの形で作られていたならば、その時点で県立支援施設を始め多くの事業所が支援の点検を行っていたと思います。その時点で点検を行い何らかの措置を講じていたならば、津久井やまゆり事件を始め、今報道されている県立県営施設「中井やまゆり園」の虐待は起こらなかったのではないかと思います。
- かながわのグランドデザインを策定する時にこのような視点も必要なのではないかと思います。
- 意思決定支援に関して、とても大切だと思います。意思決定支援の在り方を学ぶことも大切ですが、ご本人との関係をどのように築いていくことができるか…その視点が抜けると本人の意思に反し、支援者の思いだけになってしまう恐れがあります。相談支援体制の相談支援専門員の育成も同様だと考えます。

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 海津ゆりえ

議題（１）「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

観光関連では、自然・文化を守りながら地域と深く触れ合うエコツーリズムへの着目が高まっている。地域が主体となるため、関係人口の増加につながり、観光にとどまらない効果を生む。また、観光地域においては、Blue Flag、GSTC やその日本版である JSTS-D、Green Destination 等の国際認証も活用しながら、持続可能な観光を実現する例が育っている。これらは国際的な流れとも呼応しており、インバウンドを促進する上での基盤となる重要な視点といえる。加えてその波及範囲は観光産業の活性化にとどまらず、SDGs の達成に直結するものである。現在の構想案では、エリア別の観光や観光者数の増減、観光プロモーションの効果、実績といった点に焦点が当たっているが、今後、神奈川県観光振興を進める上で、どのような理念のもとで神奈川県の観光を育てるのか、という指針を示す必要があるのではないかと考える。理念としての持続可能な観光の推進、地域で取り組む観光のあり方としてのエコツーリズムやアドベンチャー・トラベルなどの促進を図り、これらに関わる神奈川の人材を育てることで、県に眠る豊かな資源が活用され、新しい交流の基軸が生まれると考える。

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 国崎信江 (危機管理教育研究所)

議題 (1) 「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

「基本構想の点検」について

- わが国は地震、火山、洪水、土砂災害、台風等の自然災害が発生する災害大国であるが、近年は地球温暖化の影響を受けて世界的に自然災害による被害が多発化、激甚化している。日本でも毎年のように気象災害が日本各地で起きておりこうした近年の被災状況や今後の巨大地震の発生の切迫性を鑑み、神奈川県では自然災害の被害を抑え県民の生命および財産を保護し経済活動の維持を可能にするべく、これまでの防災施策に対する効果を意識しながら先進的な取り組みを推進していくことが求められる。
- 自然災害から生命および財産を守れずして「いのち輝くマグネット神奈川」の実現は成しえないため、基本構想の点検においては、神奈川県の将来像および政策の基本方向において被害軽減に向けて防災分野が取り組むべき政策を強調することが重要だと思う。
- 先進的取り組みの一例として、国土交通省の「持続可能な開発と回復力に富んだ対策へ」にある新しい政策に「住まい方の工夫」が挙げられているように、従来の「災害が起きるまえに避難」を前提とした対策から避難しなくてもよい家づくりに転換すべき時代に来ていると考える。高齢者が高齢者を支える現状において、災害時の負担はさらに大きくなり個別計画を作成し要支援・要介護高齢者の避難を地域で支えることも難しくなっている。たとえば、津波・土砂災害・洪水・地震のリスクが高くともそれらの事象に耐える家に住まうことによって生命も財産も守られ、地域や行政の負担も大きく減らすことができ、経済活動の維持も可能となる。先進的に取り組む内容としては一案として、土地のかさ上げ（盛り土）・高床構造・耐震構造・鉄筋コンクリートの塀で建物を囲む・止水板設置・防水建材の使用等について技術開発促進や助成制度の設置等に関する検討が行われることなどである。
- 避難訓練や計画書の作成支援だけでなく、より直接的に被害を軽減する政策について検証し被害の軽減に資する神奈川グランドデザインを構築することが望まれる。

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 原嶋洋平

議題（１）「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

・エネルギー・環境に関して、「分散型発電への転換」（35 頁）、「再生可能エネルギーの導入」（37 頁）、「エネルギーの地産地消」（39 頁）が示されている。しかし、実際には、県内で利用する電力の多くは、県外の発電所でつくられている。（水の場合に水源地の環境に配慮するのと同じように）、県外の発電所による諸影響についても注意を要する。将来的に、県民が「電力がどのようにつくられたのか」を知り、県外の発電所による諸影響にも配慮する施策が必要になる。

参考：

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/f160477/p1202575.html>

・「環境問題の動向」（22 頁）において、プラスチックの利用と処理の状況について説明が全くない。日本では廃プラの再生利用は進んでいるが、一人当たりの消費量が極めて多い。また、大量のプラスチックが再生利用の目的で海外（主にアジアの途上国）に輸出されてきたことが一般にはあまり知られていない。県内で一旦回収された廃プラが海外に持ち出されていることがある。将来的には、ワンウェイ削減だけでなく、プラスチックの生産と消費を抜本的に見直す施策が必要になる。

参考：

<https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf1.pdf>

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0101/fceb0360455b6cdf.html>

（表現について補足）

・「温室効果ガスの約 9 割を占める二酸化炭素」（22 頁）とあるが、これは日本での割合で、一般的には「約 75%」と説明されている。

参考：https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/chishiki_ondanka/p04.html

・「気候変動」と「地球温暖化」の 2 つが頻繁に使われているが、その使い分けが必ずしも明確ではない。

・「社会から取り残される人々」という表現が頻繁に使われている。政策・計画の目標で使う表現としては曖昧で、幅が広すぎる。もう少し具体的な表現が必要に感じる。

「電力を選択する」が地球を救う

電力小売全面自由化の社会情勢を踏まえ、「電力の選択」について情報提供を行います。

コラム「電力を選択する」が地球を救う

日本の電力化率は40%台です。つまり、自然界からとりだしたエネルギーの40%を「電力」という形に変えて利用しています。この割合はアメリカやドイツを上回っており、世界のなかでも高い水準にあります。そこで問題は、「何からつくられた電力を選択するか？」です。現在、日本ではほとんどの電力が化石燃料（石油、石炭、天然ガス）からのものです。これが地球温暖化の原因になっています。地球を救うためには、環境にやさしい電力に切り替える必要があります。

電力自由化が始まったことで、私たち一人ひとりが「電力を選択する」ことができるようになりました。今までは、何から電力をつくるかは電力会社に任せきりでした。しかし、これからは違います。「**どのエネルギーからつくられたか**」を意識して電力を選べるのです。それによって、再生可能エネルギーからの電力が増えれば、地球温暖化の防止につながります。

「かながわエコ10（てん）トライ」は、私たち一人ひとりの実践行動をとおして、持続可能な社会をめざしています。家庭や職場では、照明や冷暖房などのために大量の電力が消費されています。電力自由化を活用すれば、料金の節約だけでなく、地球環境問題の解決にも貢献できるのです。

一般県民（インターネット利用者）を対象にした[今年のアンケート結果](#)によれば、「電力会社の変更、もしくは変更の検討をした人」の割合は69%に達しています。そのうち多くの方々が、「電力構成が自身の価値観と一致しているか」、「再生可能エネルギーの割合が高いか」、あるいは「CO2排出量の少ない電気を供給しているか」を重視しているそうです。

「電力を選択する」ことで、日本のエネルギーの未来を変えることができます。電力会社が提示する条件を比べてみましょう。「会社は信頼できるか」、「料金は安いのか」、そして「**電力は何からつくられているのか**」を**チェックしてみてください**。地球を救う一歩です。

（拓殖大学教授 原嶋洋平）

【拓殖大学教授 原嶋洋平氏プロフィール】

名古屋大学大学院修了。博士(学術)。地球環境戦略研究機関(IGES)主任研究員を経て、2000年から拓殖大学に。国立環境研究所客員研究員、国際協力機構(JICA)環境社会配慮助言委員会委員、神奈川県総合計画審議会特別委員などを歴任。

参考URL : https://fis.takushoku-u.ac.jp/education/staff/harashima_yohei.html

「地球温暖化と省エネ行動に関するアンケート調査」を実施しました。

かながわ地球環境保全推進会議では、平成30年度地球温暖化と省エネ行動に関するアンケート調査を実施しました。

- [平成30年度 地球温暖化と省エネ行動に関するアンケートの集計結果](#)
- [地球温暖化と省エネ行動に関するアンケート調査報告書 \(PDF : 982KB\)](#)

電力選択に役立つ情報

電力は何かからつくられているのか（電源構成）を確認するなど、電力選択に役立つ情報を紹介します。

- [グリーン購入ネットワーク「エコ電力特集」](#)
（画面右側「電力供給事業者の環境情報データベース」も合わせてご参照ください）
- [パワーシフトキャンペーン「電力を選ぶ」](#)

※かながわ地球環境保全推進会議にて収集したものを例として掲載しています。

電力小売全面自由化に関する情報

- [経済産業省資源エネルギー庁「電力小売全面自由化」](#)
- [神奈川県エネルギー課「電力・都市ガス小売全面自由化」](#)（別ウィンドウで開きます）

このページに関するお問い合わせ先

環境農政局 環境部環境計画課

[環境農政局環境部環境計画課へのお問い合わせフォーム](#)

地球温暖化対策グループ

電話 045-210-4053

このページの所管所属は[環境農政局 環境部環境計画課](#)です。

〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1
045-210-1111（代表） 法人番号：1000020140007

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 堀越由紀子

議題（１）「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

1. 基本目標の2番目「いのちが輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川」、(現在の状況と基本目標の検証)の項目の後段 について

本文「・・・そうした中、県内では少子高齢化が加速度的に進行しており、団塊ジュニア世代が 65 歳以上となる 2040 年頃も視野に入ってきました。自然災害においては特に高齢者や障がい者が被害に遭いやすい傾向がありますが、気候変動により県民のいのちを脅かす自然災害のリスクはますます高まっています。また、高齢化の進行に伴い、高齢者をターゲットとした犯罪や高齢者が関わる交通事故の増加、医療・福祉サービスの人手不足や偏在など様々な課題の深刻化が懸念されています。」

- ① 赤字部分追記してはいかがでしょうか？
② 以下、特に下線部分へのコメントです。

- * 「誰もが元気で長生きできる」とするとき、対象がどうしても高齢者に偏りはしませんでしょうか？ 例えば障がいを持つ人々のことが視野に入っているのでしょうか？ それを読み取れません。犯罪に巻き込まれるのは障がい者も同様(特に知的障がい者)。交通事故、鉄道事故(転落等)にしても同様です。
- * また、事故や犯罪の他に、子どもや障がい者の虐待や権利侵害の問題は無視できないと思います。「元気で長生き」の前提として、人としての尊厳の保持が必須ではないでしょうか？
- * 高齢者の増加→マジョリティとしての高齢者→それをターゲットにした政策 という文脈は理解できます。しかし、マイノリティないし社会的弱者(用語が適切かどうか分かりませんが)の「いのちが輝く」ことについて、どのように考えるのか、これは捨象してはならないことと思います。
- * 結果として誰のいのちも輝く状況を実現させようとする政策であれば、もう少しマイノリティへの眼差しが欲しいところです。

2. (イ) 政策分野別の基本方向の検証 の項について

- * 「(2)安全・安心・・・また、高齢化が進行する中、高齢者を狙った特殊詐欺や子ども・女性に対する犯罪、サイバー空間における犯罪、高齢運転者による交通事故なども後を絶たず・・・」については、上記と同様にもう少し障がい者のことを視野に入れた記載をお願いしたいです。
- * 「(4)健康・福祉・・・また、コロナ禍で顕在化した生活困窮者への総合的な対策を推進するとともに、当事者目線の障がい福祉の実現に向けて、**障がい者の尊厳が守られ**、自らの意思を反映した生活を送ることができるよう**意思決定を**支援することや、重度障がい者の地域生活移行に向けた人材の育成等を推進していく必要があります。」については、赤字部分のようにしてはいかがでしょうか？ 意思決定支援が強調される昨今ですが、そもそも、基盤としての尊厳の保持が不十分な状況が散見されますので。

その他は、必要に応じて当日に口頭で補足いたします。

第 95 回計画推進評価部会 意見表

氏名 和田 優

議題（１）「『かながわグランドデザイン 基本構想』の点検」について

専門分野において、社会環境の変化等により、中長期的な視点から新たに認識された、あるいは認識されつつある課題について、ご記載をお願いいたします。

課題 1, 社会環境の変化や高齢化が進む中、地域によって医療関連サービスや健康支援サービスに格差があってはならない

現在検討中の研究テーマ：

超高齢化社会における総合的な地域看護医療ネットワークサービスの必要性と具現化

*** 病院から在宅までの総合的看護医療計画の実践と「患者目線で、人にやさしい」在宅訪問看護（介護）医療サービスの実現**

- － 生活空間まで延伸した診療、診断、看護（介護）
 - ・ 病院の延長線上の治療と訪問看護連携体制の検討
 - ・ 遠隔での診療、診断、看護、リハビリ支援の検討
- － 地域社会とつながった病院（医療＋看護）ネットワーク
 - ・ 県内特定エリアを事例としたメディカルネットワークサービスの実験
 - ・ 看護医療連携と地域ホスピタリティの充実

*** 「医療」、「保健」、「福祉」の連携と「予防」、「治療」、「回復」の循環を目指す**

課題 2, 未病対策を軸に高齢者も住み慣れた地域で安心して生活が継続できる様、自立した県民のための持続可能な街づくりの理念が必要

現在検討中の研究テーマ：

ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好で、持続的な状態である事）な街づくり構想を推進

コロナ禍の終息と共にグローバル化も加速し、さまざまな考え方やバックグラウンドを持った人とコミュニケーションをとる機会が増えていくはずで、その際に、それぞれの能力をフルに発揮させ、コミュニケーションを円滑にとるには、

多様性を認めることとウェルビーイングが必要だと考える。

また SDGs の項目にも「すべての人に健康と福祉を」という項目が設けられ、ウェルビーイングについて考える必要がある。

*** 未病対策重視の視点から以下の3つに重点を置く**

- ・ Social well-being (ソーシャル ウェルビーイング)
- ・ Community well-being (コミュニティ ウェルビーイング)
- ・ Physical well-being (フィジカル ウェルビーイング) に重点
 - －健康な生活の為の I/F ウェルビーイング
 - －機能維持の為の I/F ウェルビーイング
 - －環境と結びついた I/F ウェルビーイング
 - －心理的ストレスを失くす I/F ウェルビーイング
 - －介護の為の I/F ウェルビーイング

*** インクルーシブデザインを基本 (バリアフリーは包含)**

課題3, 女性の社会進出に伴い、家庭内の新しい課題も見えてきた。特に睡眠不足等による健康リスクの課題があり、特に子どもと女性(母)の睡眠時間の問題については改善の必要がある

現在検討中の研究テーマ：

スリープマネジメントの重要性と健康支援

*** 男女を問わず、現在日本人の5人に1人は睡眠に関する悩みを抱え、睡眠不足による疾病リスク上昇や生産性・創造性の低下などが注目されており、睡眠を改善することの重要性が高まっている。**

- ・睡眠は、生活習慣の一部であるとともに、神経系、免疫系、内分泌系等の機能と深く関わる、生活を営む上での自然の摂理であり、健康の保持及び増進に欠かせない。
- ・睡眠不足や睡眠障害等の睡眠の問題は、疲労感をもたらし、情緒を不安定にし、適切な判断力を鈍らせるなど、生活の質に大きく影響する。
- ・また、こころの病気の一症状としてあらわれることも多く注意が必要で、特に無呼吸を伴う睡眠の問題は高血圧、心臓病、脳卒中の悪化要因として注目されている。

*** 女性の社会進出が進み、親のライフスタイルによって子どもの睡眠も大きな影響を受けていることが問題**

- ・小児の睡眠不足や睡眠障害が持続すると、肥満や生活習慣病(糖尿病・高血圧)、うつ病などの発症率を高めたり症状を増悪させたりする危険性がある

課題4, 首都直下型地震等大規模災害に見舞われたときに対応できる様、根本的な避難所デザインの見直しが必要であり、安心・安全のための新しい対策を男女共同参画の視点を入れ検討すべきと考える

現在検討中の研究テーマ：

男女共同参画の視点を入れた避難所デザインと運営イメージの検討

- * 災害関連死や様々なトラブルを防止するためには避難所の環境が左右する
 - ・ 男女の課題（プライバシー、性犯罪、DV 被害者・加害者対策等）
 - ・ 男女分離エリアの設置の議論
 - ・ LGBTQ 性的マイノリティ対応と対策
 - ・ 女性特有の対策（衛生用品、妊産婦等）
- * 男女共同参画視点ではスペース、プライバシー、トイレ、キッチン、ベッドの5項目
 - ースペースとプライバシーの確保（感染対策や盗難、様々な人的トラブル回避のため）
 - ー非常用トイレの考え方を刷新
 - ー避難所の食事の在り方も準備が必要
 - ーいつまでも床ですか？非常用ベッドの重要性
- * 同調圧力を抑止するのは男女共同参画
 - ・ 公助、共助という耳障りの良い言葉から、間違った同調圧力が生まれることもある。まずは人であり、多様性を理解したうえでの、ルール作りが必要。
 - ・ 日本の場合、苗付けや収穫など隣組で助け合って作業をするような農耕文化が根付いているため、無意識のうちにみんなが我慢して、助け合って乗り越えようとする文化が時として問題の種になる。
- * 災害発生時に、有給ボランティアとして各専門職（電気、テント張りなど）が集合して対応にあたる仕組み作り